

紙面から

教育随想

「爽やかな青年たちに学ぶ」
岡崎市図書館協議会委員
福島雄一郎氏

この人に聞く
少年自然の家の守部
岩切忠行氏

特集
「地域の人に学ぶ」

師弟同行

長谷川四郎・和田実

フォト・ヒストリー 岡崎の教育
4日クラブ (昭和二十六年)



7月号

平成10年7月1日

発行/編集

岡崎市教育委員会



(何して遊ぼう — 六ツ美北中)

名古屋で開かれたある親子の会で、波乱の中学を過ごした青年たちと、その親たちの体験を聞いた。

「登校拒否しちゃったので、中学にはほとんど行ってない」と、少し恥ずかしそうに話す二十四歳のA君。

「あたし、学校でイジメられていたから、いつも休むことばかり考えていた。それで病気になることにした



んです。そうしたら本当に立つこともできないほどひどくなって、中学

へは一年のとき少し行っただけ」と、二十歳のB子さん。

「家にいると親がうるさいので嫌になり、親父が帰って来る頃はいつも

町をふらついていた。気がついたら暴走族。そうだなあ、警察には四回つかまったかなあ」と、淡々と話

す二十三歳のC君。

参加した親たちは、わが子が荒れたとき、「うちの子はどうしようもないやつだ」「弱虫で情けない」と、

あきらめの言葉でわが子を突き放していたという。それでは親子の関係は少しも良くならないと振り返る。

それが何かのきっかけで、親が目覚め、こうしてはいられないと思う

— 教育随想 —

爽やかな青年たちに学ぶ



岡崎市図書館
協議会委員

福島雄一郎

ようになった。自分の生き方を振り返り、気づいたのだ。そうすると、息子や娘に対する気持ちが変わり、「お父ちゃんが悪かったなあ。」「お母ちゃんが悪かったなあ。」ということになる。

親自身が何かに感ずるようになってと言葉も生まれ変わり、何もかもいい方に向かった。これはいったい

何だろう、と親たちは語る。

親の生き方が変わると、子供もまた自分らしい生き方を見つめる。会場の青年たちは、見事に立ち直った人たちが多かった。

ドラマのようだが事実である。いまA君はサッシの職人、B君はスーパーの魚屋さんに勤め、C君は父親の経営する肉卸会社の社員として、皆それぞれに社会で活躍している。

どの青年たちも目を輝かせ、自分の体験と今の気持ちをありのままに語っていた。なんて爽やかな青年たちだろう。私は胸が熱くなった。

どの子も、どの人も、何かいいもの、優れたものを必ず持っている。それをどう見つけ、伸ばすかである。それが出来ないばかりに、子供たちは落ちこぼれてしまうのだ。

そして何よりも大切なのは、親は人間としてのあり方や生き方をわが子に伝えなければならないと思う。

人間だけで社会は良くも悪くもなる。子供たちには無限の可能性がある。親子の貴重な体験を聞きながら、私は人間らしく生きることの大切さをあらためて感じた。

（ふくしま ゆういちろう）



Tさんの入院

山中小学校長

鴨下智幸

新任のころの教え子Tさんのお母さんから電話をいただいた。

Tさんは、現在九州大学にお勤めのご主人とともに、博多に在住のため、手紙のやりとりくらいで、久しく顔を見ていない。

小学生のころから元気印の付く子であり、ご両親や兄弟の愛情を一手に受け、おっとりとした心根の優しい子で、結婚後も二人の子供の教育に心を砕く、幸せな奥様業の日々を送っている。

電話でのお話では、Tさんが突然、体の変調に気付き医者診断の結果入院治療となり、現在九大病院に入院しているとのこと、相当のご心痛の様子であった。とりあえず、見舞いの手紙を送ったところ、近況を綴った返事が届いた。「病気とは縁遠い私が、長期の入院となった今、ふと今までのことやこれからのことを考えたとき……」

ふるさとシリーズ

この人に聞く



少年自然の家の守部

岩切 忠行 氏

晩春の心地よい夕暮れの迫った少年自然の家に、岩切さんをお訪ねした。昭和五十二年の自然の家開所以来、現在までの二十一年間、自然の家に住み込みで、奥様と共に自然の家の施設と自然を管理し、守つてこられた方である。

「五十二年四月に辞命をもらい、初めてここに来て来たときは、まだ工事中で、トイレも風呂もなく、電気も来ていなかった。帰るわけにもいかず苦労しました。」

開所当時の苦労をなつかしむように、岩切さんのお話は続いた。

「ある校長先生から、五年頑張れば花が咲くと言われたが、あのころは土も赤土でくちやくちや。大雨が降れば、溝もないので雨水が流れて、夜、テントを子供が持ち上げていたこともありました。自然には勝てん、時期が来んといかんということですよ。」

岩切さんの仕事は、山に関するすべてである。スズメバチやヘビ、ムカデなどの付き合いも多い。

「マムシは危険なので足で踏んで殺します。毒のないヘビは殺しません。」

「去年、アナグマが出て残飯をあさり大変でした。六匹を捕まえて、遠くに逃がしました。」

「山の下草刈りをしてササユリが目立つようになり、数も増えました。美しい花なので、大事にしてやりたいですね。」

岩切さんの言葉の端々から、人間の都合で自然を損なわないという姿勢を垣間見ることができた。山に生きる人ならではの思いであり、少年自然の家の運営にも、その姿勢が生かされているように感じた。

「二十一年もいて、山から多くのことを学びました。大雨が降れば、危険箇所はどうなっているだろう

とか、山のことが自然に頭に浮かんできます。子供が事故に遭ってはいかんからね。」

子供のためだがね——この言葉が何度も聞かれた。岩切さんのふところの温かさが、この言葉に込められているように感じられる。

自然の家で育った息子さんが、今ではそれぞれ独立し、立派に生活されていることが、親として最もうれしいことだと言われる。岩切さんは今年で定年を迎えられるが、「花が咲いたがね」と、奥様と共に、笑顔で自然の家とそれを取り巻く環境に心から感謝をされていた。

氏名 いわきり ただゆき
生年月日 昭和十三年七月十六日
住所 須渕町屋名平四四一



妻として母としての心情が、痛いほど伝わってくる。

いつまでも残る、担任していたころのおっとりとしたお嬢さんのイメージから、立派に成長したTさんとが複雑に重なり、時の流れにしばし当時のことを思い浮かべた。

せめて心の支えとなるような言葉掛けでもできたらと思う。

時々が開かれる同級会では、懐かしい話の花が咲き、笑顔で再会を誓ってお開きとなることが多いが、人それぞれに今の生活があり、苦しい時期を過ごしていたり、悩みを持つ者もいるだろう。そんなとき、自分が相談相手として、心にとまり得る存在であるのか、自信はない。

私自身、恩師に当たる諸先生から、人生の大きな節目となるような折、あたたかい励ましのお言葉や、ご助言をいただくことができた。今、教師として経験を積み、自分の身の回りの人間関係も多種多様となった。一人でも多くの方と心をつなぐことができるようにと願う。

肩を張らず、力まず、自然体で話し合えることができる人間関係をお願いしながら、いつまでも未熟な自分を省みて、せめて見舞いの手紙に心を込め、Tさんの治療を願うばかりである。



▲ゲートボール交流会（岡崎小）



▲三河万歳（細川小）

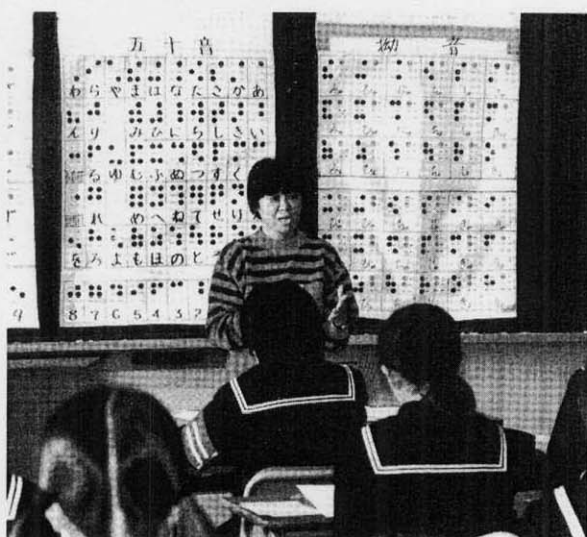


▲視覚障害の体験（六北小）

近年、「生きる力」の育成や総合的な学習を見据えた体験学習の重要性が叫ばれており、子供たちに多様な生き方を学ばせたり体験させたりすることが必要となってきた。そのため地域に在住し、貴重な体験をされた方や豊かな知識と優れた技術を持たれた方などを発掘し、目的に合わせてお招きするようになった。

「地域の人に学ぶ」学習のメリットは、数多く挙げられる。一つには、学習効果の大きさである。実際に体験された人から直接お話を聞き、ご指導を受けたとき、子供たちは新鮮で強いインパクトを受ける。多様な生き方を肌で感

地域の方々を学校にお招きし、授業やクラブ・部活動、行事などさまざまな場面で「地域の人に学ぶ」教育活動を実践している学校は多い。



▲点字教室（竜海中）



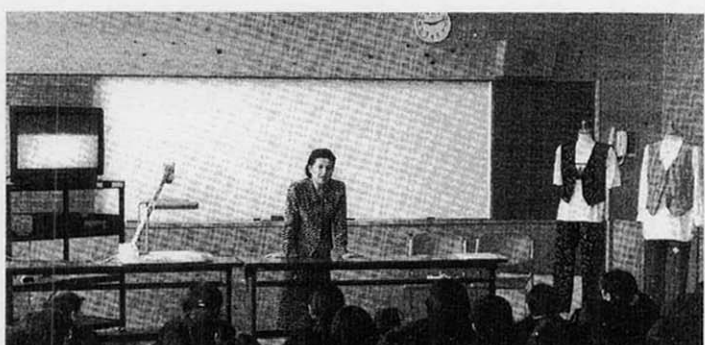
▲北野フェスティバル（北野小）



▲戦時中の食事体験（六名小）



▲パラリンピック選手を招いた体育大会（矢北中）



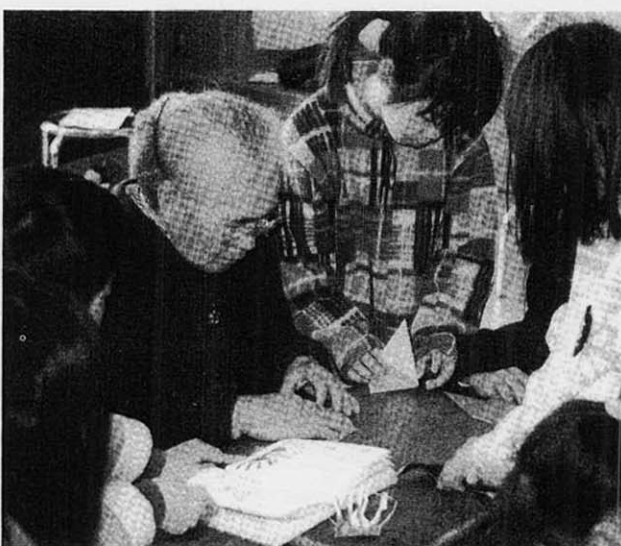
▲服飾デザイナーを招いた被服の授業（城北中）



▲手品教室（矢西小）



▲茶の湯（東海中）



▲折り紙教室（男川小）

じ、普段の学校生活では学ぶことのできない体験学習をすることの価値は大きい。

また、人と人との触れ合いの場にもなる。核家族化が進み、老人や地域の人と接することの少なくなった子供たちにとって、またとない機会となっている。外国人との交流も国際理解に大きく役立っている。

その他に、「地域に密着した開かれた学校」としての役割等がある。実際に子供たちと触れ合っていたいただいた方は、一様に子供たちに対し深い愛情を注いでくださった。その後も、学校教育に大きな関心と理解を示され、進んで協力していただけるようにもなってきた。

今後、さらに「地域の人から学ぶ」学習への研究的な取り組みを進めていきたいものである。



先生は見ているよ

奥殿小学校

高瀬 透

「T男との衝撃的な出会いは二年前。教室の後方でうずくまるT男。亀のように上着を頭からかぶって。すべてを拒否するときの彼のサインだ。」

「T男はいつもこうだ。こんなとき、ほかつといたよ。」
同級生は平気な顔をしてこう言う。シヨックだった。

私はT男の言動に腹が立ち、周りの子の思いやりのなさに腹が立ち、自分の指導力のなさに腹が立った。こらえ切れなくなつて涙があふれた。

だが、手をこまねいてばかりではいられない。私にできることは、自分の信念を持つて、彼にぶつかっていくことだけだ。

「自分一人で生きてるんじゃない。周りの人の気持ちを考えてみな。」



「漢字一つ覚えることより、大事なことがある。」

「教室の机を自分から整とんできるT男は偉い。」

事あるごとに厳しくたしなめたり、あるいは思い切り褒めたりの二年間だった。

春休み算数教室。自由参加だが、T男は最後まで残つて計算問題に悪戦苦闘した。

「T男に算数を教えるのは、今日が最後かもな。」

ふと私の口をついた一言に一瞬げんそうな表情をした彼。だが、普通に振る舞う彼の姿がいじらしかった。

彼はこの四月、私の手から離れ、六年生としてたくましく活躍をしている。

師弟同行

有難い出会い

南中学校

和田 実

先生との出会い。それは、常に私の転機と重なつていたことを思い出します。今思えば、先生との出会いによって私の転機が訪れたといつても過言ではありません。

最初の出会いは、講師として東海中学校に勤務していたころ、指導員訪問でご指導をいただいたときです。多くの欠点があったにもかかわらず、リコーダーの音色のよさと子供の伸びやかな声をほめてくださいました。その言葉は励みとなり、自信にもなりました。

二回目の出会いは、城北中学校の教務主任として赴任されたときです。吹奏楽部の指導に情熱を傾けていたとき、



先生から多くの助言をいただきました。その結果県大会出場を果たすことができました。

そして三回目は、音楽部長先生としての出会いでした。先見の明と、常に配慮あるご厚意によって、生かされてきました。

先生との出会いによって、私は今の自分を築き上げることができました。今後は、先生に少しでも近づけるよう精進をしていきます。

常に前向き 情熱の教師

前新香山中学校長

長谷川 四郎

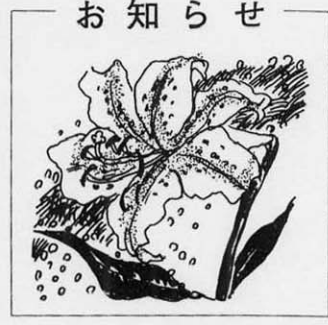
私が教科指導員をやつていたころのことを覚えていてくれ感激です。

今から十五年前になるでしょうが、あなたが東海中学校

で教鞭をとつていたとき、指導員訪問で音楽の授業を見せてもらいました。今もそのときの生き生きとした授業を思い浮かべることができます。

アルトリコーダーを中心とした授業でした。「ヤツテミセテ イツテキカセ サセテミル」という指導の基本をきちんと踏まえ、的確な指示を出していました。一人一人の生徒に目を配りながら指導をしているあなたの姿を見て感動すら覚えたものです。将来が期待される教師だと、そのとき思いました。

二度目の出会いは、城北中でした。音楽教育に情熱を注ぐ、ファイトに満ちたあなたに圧倒させられたものです。当時、あなたは吹奏楽部の顧問として、日曜日にも出校し、毎日全力で指導に当たっていました。その努力が実り、蒲部市民会館で開催された昭和六十年愛知県吹奏楽コンクールで見事、一位（最優秀賞）を獲得しました。あのときの感動は、今も懐かしく思い出されます。



◆三好カップ国際レディース
カヌー大会

- ・五百Mカヤックシングル
優勝 新香山中 増谷 鈴子
- ・二百・五百Mカヤックペア
優勝 新香山中 増谷 鈴子
柴田 真有

◆中日本中学生アーチェリー
大会

- ・五十・三十M
優勝 東海中 萩原 通友
- ・三十M
優勝 東海中 長田 直美
- ・十八M
優勝 東海中 渡辺 恵

◆FBC県春花壇中央審査

- 優良賞 根石小学校
- 優勝 東海中 田代 智久
- 優勝 東海中 近藤友香里

◆愛知県・江蘇省青少年囲碁
交流代表選抜大会

- 優勝 竜海中 山本 智裕

◆第42回岡崎市中学校総合体育大会の記録

●種目別競技

種目	性	優勝	2位	3位
陸上競技	男	東海中	矢作北	城北
	女	矢作北	六ツ美	矢作
バスケットボール	男	城北	竜海	竜南
	女	竜海	葵	竜南
バレーボール	男	矢作北	六ツ美	東海中
	女	矢作北	竜南	竜海
ソフトテニス	男	河合	新香山	六ツ美
	女	福岡	甲山	南
卓球	男	矢作北	河合	矢作
	女	矢作	竜海	新香山
体操	男	竜海	甲山	
	女	矢作北	竜海	甲山
新体操	男	東海中	南	竜南
	女	福岡	新香山	六ツ美
剣道	男	東海中	南	竜南
	女	福岡	新香山	六ツ美
ハンドボール	男	葵	城北	六ツ美
	女	六ツ美	美川	竜南
軟式野球	男	矢作北	南	東海中
	女	矢作	城北	矢作北
ソフトボール	男	甲山	竜南	新香山
	女	甲山	竜南	新香山
サッカー	男	竜南	福岡	甲山
	女	甲山	新香山	北

★ 大会新記録
☆ 大会タイ記録

●陸上競技(個人・1位のみ)

性	種目	氏名	校名	記録
男子	1年100m	酒井 シェリコ	美川	★ 12'2
	100m	鈴木 恒太	東海	11'9
	200m	河合 輝久	福岡	24'7
	400m	細谷 司	矢作北	57'0
	800m	小林 健介	福岡	2'08'0
	1年1500m	伊藤 正人	竜海	4'53'6
	2年1500m	川野 竜男	東海	4'30'0
	3000m	山本 康生	東海	9'32'9
	110mH	大河原 慎吾	新香山	★ 15'7
	4×200mR	黒野・鈴木・三治・新裕	矢作	1'38'4
女子	低4×100mR	瀬戸・杉浦・嶋田・黒木	竜南	49'6
	走幅跳	山口 直樹	矢作北	6m07
	走高跳	及部 保紀	東海	1m75
	砲丸投	市石 豊	南	13m15
	棒高跳	山田 裕起	矢作	3m30
	1年100m	鷹巣 望	南	14'0
	100m	中山 啓子	美川	13'0
	200m	吉田 梨恵	竜南	27'5
	800m	浅井 潤子	東海	2'30'5
	1500m	高橋 佑季	六ツ美	5'04'9
男子	100mH	堀 真弓	矢作北	15'6
	4×100mR	内田・堀・横井・深見	矢作北	52'7
	低4×100mR	神谷・佐々木・岩切・森本	矢作	55'9
	走幅跳	堀 真弓	矢作北	4m99
	走高跳	山崎 藍	城北	☆ 1m53
	砲丸投	神納 明子	常磐	10m12

●体操競技

(個人・1位のみ)

性	種目	氏名	校名
男子	個人総合	岸本 毅	竜海
	床運動	岸本 毅	竜海
	鉄棒	岸本 毅	竜海
	跳箱	岸本 毅	竜海
女子	個人総合	足立 智美	竜海
	床運動	足立 智美	竜海
	平均台	足立 智美	竜海
	跳箱	足立 智美	竜海

●柔道

(個人・1位のみ)

性	階級	氏名	校名
男子	軽量級	佐藤 充	六ツ美北
	軽中量級	近藤 久王	新香山
	中量級	市川 智英	竜南
	重量級	小林 幸之助	竜海
女子	軽量級	夏目 朋美	甲山
	軽中量級	中根 舞	甲山
	中量級	稲吉 友美	甲山



▲FBC中央審査で優良賞を受賞した根石小の花壇



フォト・ヒストリー 岡崎の教育

4Hクラブ

(昭和26年)

・表紙写真
・カット
岩津小 小川恵子
六ツ美北中 山本頼永

それらの活動は、当時の生活に密着したものであったに違いない。

美川中学校では、勤労学習・奉仕活動・助け合い学習の目的で発足し、常時三十人から四十人のクラブ員が集っていた。父親が病気の家の稲刈りを行う、大平川の堤防付近にスイカ畑を作る、大豆を育てて豆腐を作る等々。

農業・生活改良普及事業の一環として考案された4Hクラブ。「4H」とは、head(頭脳)、hand(技能)、heart(心情)、health(健康)の頭文字を表している。



写真提供 美川中



- * 辺境・近境 新潮社 村上 春樹 ￥1400
- * パパ, やったよ 講談社 根岸 康雄 ￥1500
- * ただひたすらに 第一法規 毛涯 章平 ￥1650
- * 子育ては言葉の教育から PHP 文庫 外山滋比古 ￥448

* 兄弟 なかにし礼 ￥1619
文藝春秋

無謀な事業に次々と手を出して巨額な借金をつくり、それをすべて弟に押しつける兄に悩まされ続けた著者は、身を削るようなアルバイトをして学校に行き、やがて作詞家として成功する。しかし、「石狩挽歌」の歌碑の除幕式に出かけた帰途、すべてを失ったあの兄の鯉漁がなければこの歌は書けなかったのだということに思い当たる。

この小説は、愛憎半ばした兄への美しい鎮魂歌であり、これを書かずにはいられなかった著者の気持ちが痛いほどよく分かる。

「お米を食べてくださいよ」の言葉を残し、教室をあとにされた米作り農家の方。社会科授業の講師を引き受け、わずかに十五分間の講話のために半日悩み、考えられたという。地域の人々の、子供たちへの熱い思いを感じた。学んだのは子供たちばかりではない。

シ オ

ス ア

「ありがとう」の言葉を、岩切さんご夫婦は山に贈られた。「少年自然の家」の山は、どこにでもある山なのだが、長く付き合っていると、実に多くの発見と感動があるものだ。

山と子供。純粋なものへの感謝の念が、尊く感じられる。

シャワーをあびて、さあプールへ。暑い夏を迎え、いよいよ水泳シーズン到来である。

「今年は何メートル泳げるかな」子供たちの挑戦が始まる。基本をしつかりマスターさせ、自信を持つて取り組ませる。そんな夏にしたい。

スニーカーを脱ぎ捨て、素足に。泥と汗にまみれて自然と格闘する経験は、知恵を生み出し感性を研ぎ澄ませます。

生活科を学んだ子供たちも中学生になった。現代社会を生き抜くたくましさは備わりつつあるだろうか。